

㈱フレッシュコーポレーション「O157 広域感染に関する当社の最終報告」総括にかえて

ゼンショーグループは、2017年8月、傘下企業の㈱フレッシュコーポレーションが運営する惣菜チェーン店「でりしゃす」において発生したO157広域感染の事案について、食に携わる企業にとって極めて重い教訓として受け止めています。「今後も本件を風化させず、将来に亘って再発防止に取り組んで行くこと」を、グループ全社において食品安全の指針とし、ここに表明します。

本事案については、㈱フレッシュコーポレーションより「O157 広域感染に関する当社の最終報告」¹にてお知らせしている通り、同一遺伝子型の菌による食中毒が全国的に発生した広域感染事案であり、「でりしゃす」における感染のうち、ポテトサラダを喫食された方については、ポテトサラダの製造者である仕入先メーカーが一義的な製造物責任を負っているものと考えられます。また、加熱食品しか召し上がらなかった方については、厚生労働省の「取りまとめ」においても、当社グループの独自調査においても、感染経路が明らかにされていません。他方で、当社としては原因となったポテトサラダの販売者としての責任、また、原因が明らかにならなかった事案ではあるものの、当時3歳の女の子が命を落とされたという事実を重く受け止めています。ご命日である9月8日を「食の安全総点検デー」と定め、グループの幹部メンバー全員による食品安全会議を毎年開催し、本件の記憶を新たにするとともに、グループ全従業員が食品安全についての意識を新たにします。

また、食中毒により世界で年間42万人（WHOによる2015年推計）が亡くなっている実態にも思いを致し、食の安全を最優先事項とすることを誓います。当社グループでは今後も世界中に安全で安心できる食事をご提供する食の供給システムの構築を目指し、事業を展開してまいります。

¹ [㈱フレッシュコーポレーション「O157 広域感染に関する当社の最終報告」](#)